

Q 私は被爆者二世なのですが、二世だからがんになりやすいという事はあるのでしょうか？

→環境省による、原爆被爆二世の健康影響調査で重い出生時障害、遺伝子の突然変異や染色体異常、がん発生率、がんやその他の疾患による死亡率等について調べられていますが、どれも対照群との差は認められていません。（出典：環境省被爆二世における染色体異常

<https://www.env.go.jp/chemi/rhm/current/03-06-02.html> ）

Q 担当医と合わず、治療するかしないかすぐ選択をせまられます。ステージ4で膵臓がん、体力もなく、1回の抗がん剤でただでさえ少ない血小板が16まで下がり、どうしていいのかわからず悩んでいます。先生に相談しても他の提案をしてくれない。本人は生きたいから治療したいが・・・

→状態や治療の詳細が分からないので、必要な情報提供が出来ませんが、膵臓がんでステージIVの方の標準治療は、化学療法です。粒子線治療が受けられる場合もありますが、放射線治療も骨髄抑制といって、血小板が減少することがあります。血小板が減少することで、感染がおこりやすくなります。がんの治療を進めたいお気持ちはわかりますが、治療することでさらに状態が悪くなることが予測される場合は、治療を中止する場合があります。治療法に疑問がある場合はセカンドオピニオンで、他の先生の意見を聞くこともできます。主治医の先生へ相談してみてはいかがでしょうか。担当の先生と話しにくい場合は、看護師や薬剤師に相談もできます。また、がん相談支援センターへの相談もご利用ください。

Q 健常者でなく、家族が重度知的障害者ががんになった時具体的に相談できる機関はありますか？これまで、どこも初めてのことでわかりません。できないですと言われ不安ばかりで来ました。

→がん相談支援センターでは、全ての方が相談の対象ですので、県内5カ所のがん相談支援センターへご相談ください

Q 主人のがん診断を受けました。たばこをやめてほしいのですが、なかなかやめてもらえず。本人もやめなきゃとは思っているのですが、やめるのがストレスに感じるのか本数は減らしているものの、0にはなりません。言って本人がストレスを感じたらと言うのを我慢するのですが、やめてくれないのは私にストレスで・・・並行線のまま悩んでおります。受診のたびに、やめるようには言われます・・・。

→ がんを診断を受けた人が、喫煙を続けていると治療の効果を下げる原因になります。手術をする場合は麻酔の危機が悪くなるだけでなく、創感染や肺炎などの合併症を起こしやすくなります。また、放射線や薬物療法の効果が下がることが報告されています。

しかし、たばこには依存性があるため自分の力だけではやめたくても、やめられない場合もあります。保険診療で禁煙治療を受けることもできます。2021年から供給が停止されていた効果が高い禁煙補助薬（バレニクリン）が11月1日から供給が再開されましたので、担当医に相談してみてください。（出典：がん情報サービス「がんの発生や治療へのたばこの影響」）詳しくは、がん情報サービスを参照して下さい

https://ganjoho.jp/public/pre_scr/cause_prevention/smoking/tobacco02.html